

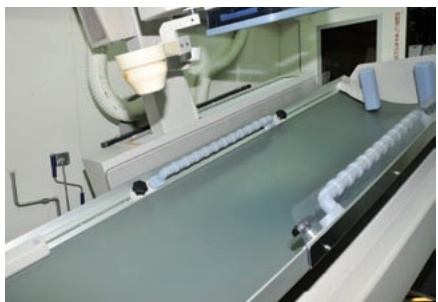
財団法人 京都工場保健会



健診技術部の竹澤龍一部長(中央)と平井聡課長(右)からお話を伺う山本真矢支部長



検診車の内部。モニターを見ながら操作を行える最新式のシステムが導入されている



こちらは胃の検査に使用される透視台



設備や検査の流れなど説明を受ける山本支部長



出張健診の拠点となる宇治支所には、他にも競輪補助事業のマークが入った検診車が並び



今年3月に導入された胃部・胸部併用X線検診車(写真提供:京都工場保健会)

企業労働者とその家族の健康管理をサポートする競輪マークの検診車

今月の訪問先は京都市中京区に本部を置く「京都工場保健会」です。昭和15年に地域の重工業関係事業場11社により、当時蔓延していた結核の早期発見・撲滅と、従業員の健康保持を目的に設立されて以来、長きに渡り労働衛生分野の確立と発展に取り組み、企業労働者やその家族の健康管理をサポートしてきました。昨年創立70周年を迎え、現在は平成22年末で会員520事業所、従業員数は97,000名を超えるまでになっているそうです。

京都工場保健会では、一般的な健康診断から本格的な人間ドックも受けられる健診センターの運営をはじめ、診察や治療を行

う診療所、事業場の環境測定の実施や労働衛生管理を担う産業医の受託活動など様々な事業を行っています。その一つに検診車を利用して健康診断や検査を行う出張健診があります。

今回は出張健診のキーステーションとなっている宇治支所に伺い、今年3月に競輪補助事業を受け導入された最新鋭の胃部・胸部併用X線検診車を見学させていただきました。こちらは胃と胸のX線撮影両方に対応した機器を積んだ一般的なにも馴染みの多い検診車ですが、その他にも成人病検診車や、女性の病気に特化した婦人科検診車など様々な車両が用意されており、そ

れぞれのニーズに合わせた健診を受けることができるようになっていきます。出張エリアは京都府を中心とした近畿圏のみならず、長野県や岡山県、四国など広範囲に渡るそうです。検診車は常にフル稼働の状態なのだとか。

旧「日本自転車振興会」時代にはやはり補助事業で導入されたという検診車も未だに現役で活用して下さっているそうで、今後も競輪マークの検診車が多くの方々の健康維持に役立てられると嬉しいですね。

今回検診車を見学していただいた山本真矢支部長のインタビューは35ページに掲載しています。